

平成 30 年度第 2 回岡崎市少年愛護センター運営委員会

日 時 平成 31 年 1 月 23 日 (水) 午後 2 時

会 場 岡崎市役所 東庁舎 701 号室

出席委員

委員長 石 川 優 (岡崎市社会福祉協議会長)
平 松 文 子 (岡崎市民生委員児童委員協議会主任児童委員連絡会会長)
柏 原 美和子 (学区女性団体代表 (井田学区))
成 瀬 眞佐子 (岡崎少年愛護センター地域指導員)
大 西 和 夫 (岡崎市小中学校現職研修委員会生徒指導部長 (六ツ美南部小学校長))
田 中 信 宏 (私立高等学校生徒指導部代表 (岡崎学園高等学校教諭))
吉 田 修 (岡崎警察署生活安全課長)
林 優 子 (一般公募)
宮 澤 会美香 (一般公募)

事務局 小野 鋼二 社会教育課長
柴田 英代 社会教育課副課長
社会教育課社会教育係 大村、渡邊、後藤
少年愛護センター 大山、浦野

議 題 (1) 平成 30 年 12 月までの活動報告について
(2) 平成 30 年度岡崎少年愛護センター指導員大会について
(3) 最近の事例について

(1) 平成 30 年 12 月までの活動報告について

配布資料に基づき、少年愛護センター職員より平成 30 年 12 月までの活動状況を報告した。

192 名の指導員の協力の下、青少年の非行防止・愛護善導の補導活動を行った。12 月までの補導実施回数は 423 回、場所は 2,478 ヶ所、補導した少年の数は 1,828 人。声かけで注意を喚起する寄りそう補導や啓発的な見せる補導を基本としているが、保護者同伴でないと立ち入れないゲーム場で遊戯していた少年がいたため、保護者へ引き渡しの通報連絡をした (通報連絡した少年の数 4 人)。

以前は未成年の喫煙を補導することもあったが、今年度は喫煙に対する補導は 1 件もなかった。

少年相談は、来所による相談が 12 件、電話による相談が 27 件あった。相談の約 7 割は母親からで、学校に直接相談できず少年愛護センターに相談してくるという事例も多くあった。

有害図書自販機が、昨年まで島坂町に 2 台設置されていたが、損傷がひどく撤去された。

「不審者」や「痴漢」などの被害報告は 67 件寄せられた。南中学区や竜海

中学区は、JR・名鉄・愛環など高校生がよく利用する駅もあることから、特に被害が多い状況にある。

引き続き少年愛護センターでは、街頭補導や少年相談、被害状況の迅速な情報提供、少年愛護の啓発活動を継続的に展開していく。

(2) 平成30年度岡崎少年愛護センター指導員大会について

開催目的、日時、会場の連絡と大会の内容を説明し、関係者の出席にご配慮いただくよう依頼した。

(3) 最近の事例について

今年度の街頭補導の事例について、それぞれ委員の立場からの意見交換を行った。

【事例】

11月末頃、街頭補導場所である大型店舗において、エレベーターのボタンを蹴っている少年3人に会った。こちらの「少年愛護センター指導員」の名札を見ていたので、声を掛け、街頭補導や少年相談が主な仕事であると伝えた。彼らは、市内の別々の高校を中退したと教えてくれた。何かやりたいことを見つけて頑張るよう励ましの声を掛けて別れた。

様々な理由で学校へ行かなくなった少年や、中途退学した少年への対応についてご意見ご助言をいただきたい。

【意見】

- ・非行がある場合は立ち直り支援で継続的に働きかけることもあるが、非行化していない場合においても少年係員が保護者の同意を得て、働きかけて問題等を聞いていくこともあるので、警察に相談してほしい。
- ・少年の名前や住所等は聞きづらいと思うので、「何か困った時は連絡ください」とこちらの情報を周知する何かを渡した方がいい。大人が目線をおろして「見守っていますよ」とアピールした方が、彼らから接触してきやすいのではないかな。
- ・問題意識を持って見てしまいがちであるが、本人たちは面白楽しく生活している。指導員として、取り締まりではなく見守りの気持ちでやっていきたい。
- ・学校の現状として、自分の行為を認めず、反省せず、学校に縛られるのが嫌だと自主退学していく子どもがいる。
- ・指導員が話しやすい雰囲気を持っていたため、短い時間で少年が自分のことを話したのではないかな。子どもたちは自分の言い分をしっかりと伝えないことには、相手の指導は耳に入ってこないなので、まずは傾聴して受け止めることが一番大事だと改めて思う。
- ・高校を辞めてしまった子どもたちを拾えるところがない。いずれ就職し家庭を持ってくれると一安心だが、その間どこへ相談すればいいのかな。
- ・「おいでんサポートセンター」は、本人が行こうとしない場合、保護者が相談する講座もある。
- ・少年が自身の内情の話ができたのは、指導員の人柄や接し方がよかったか

らではないか。聞き出すことはなかなか難しい。

毎月1回20校の生徒指導主事が集まり、警察の協力をいただきながら連絡交換をしている。その中で卒業に向けて意向を残させるな、学校の先生が何もしてくれないとか学校が俺らを疎外したなど思わないよう最後まで寄り添っていこうと心がけている。

子どもだけの問題ではなく「保護者とセット」と考え、最後まで家庭と付き合い子どもと顔を合わせながらやっているが、学校と担任と気持ちが通じ合わず、はみ出してしまう子もいる。横のつながりや教育委員会を中心とした関係機関とのつながりは動ける状態にあるので、もれなく小中学生を見ていこうという形でやっていく。

寄せられた貴重な情報や意見を、今後の街頭補導や少年相談で活かし青少年の健全育成に繋げていく。